

**製品名: カルシニューリン A ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe02922**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.63mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 59 kDa; Observed MW: 59 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PPP3CA
別名	PPP3CA; CALNA; CNA; Serine/threonine-protein phosphatase 2B catalytic subunit alpha isoform; CAM-PRP catalytic subunit; Calmodulin-dependent calcineurin A subunit alpha isoform
遺伝子 ID	5530
SwissProt ID	Q08209
免疫原	ヒトカルシニューリン A の合成ペプチド

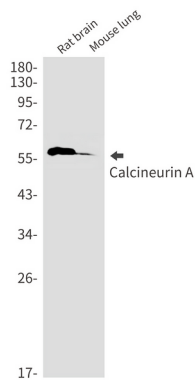
## 背景

カルシニューリンは、タンパク質ホスファターゼ 2B (PP2B) としても知られ、カルモジュリン依存性、カルシウム活性化、セリン / スレオニンタンパク質ホスファターゼであり、触媒サブユニット (カルシニューリン A) と密接に結合した調節サブユニット (カルシニューリン B) から構成されています。カルシウム依存性、カルモジュリン刺激性タンパク質ホスファターゼです。このサブユニットは、カルモジュリンによるカルシニューリンの活性化に関与している可能性があります。DNM1L、HSPB1、および SSH1 を脱リン酸化します。

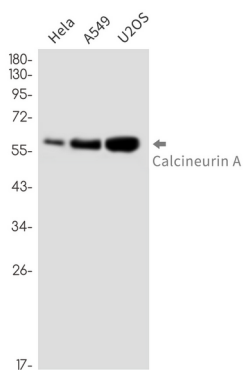
## 研究分野

免疫学

## 画像データ



カルシニューリン A 抗体を使用したラット脳、マウス肺溶解物中のカルシニューリン A のウェスタンブロット分析。



カルシニューリン A 抗体を使用した HeLa、A549、U2OS 溶解物中のカルシニューリン A のウェスタンブロット分析。